

御前崎市第4次地域福祉計画・地域福祉活動計画 評価個票

基本目標	1 お互いに支え合い安心して暮らせるまちづくり
施策の方向性	(1) 市民が主役になる小地域福祉活動の推進・支援
事業名	高齢者等見守りネットワーク事業

担当	高齢者支援課
----	--------

事業概要

地域の高齢者を見守るため、市民、団体、事業所等による日常生活や業務の中での見守りと徘徊等により行方不明となった人の早期発見など相互に連携する見守り体制を推進していきます。

令和6年度の具体的な取り組み

登録者の情報を更新し、行方不明が起こった場合にも適切に対応できる登録情報を整備した。
協力事業者向けの連絡会にて、市が実施している認知症施策の周知を行い、認知症に関することについて共有認識を図ることができた。

取り組みによる成果(地域共生社会・SDGs)

地域で協力することで、認知症であってもその人らしく地域の中で継続して生活して行くことができる。
(SDGs 目標3、目標11、目標17)

令和7年度に向けての課題や具体的な取り組み

登録者が行方不明になった際に、市公式LINEへオレンジシールの番号を記載した内容を配信できるようにする。
未登録の関係事業所(福祉用具、配食業者等)へ声掛けを行い、見守りネットワーク事業へ協力依頼を行う。

進捗状況及び自己評価

目標の内容		R3	R4	R5	R6	R7	R8	単位
協力事業所数	目標	90	93	96	99	102	105	事業所
	実績	87	85	85	82			
	達成度	96.7%	91.4%	88.5%	82.8%			

評価基準

点数	達成度	評価基準
5	100%	完了(目標達成)
4	75%	順調に進んでいる
3	50%	概ね順調。不十分な点あり
2	25%	一部実施あるが不十分多い
1	0%	実施方法含めた改善必要

自己評価

4

評価に対する内容説明

新規登録事業所が5件あったが、事業所の統廃合等に伴う登録廃止が8件があった。

御前崎市第4次地域福祉計画・地域福祉活動計画 評価個票

基本目標	1 お互いに支え合い安心して暮らせるまちづくり
施策の方向性	(1) 市民が主役になる小地域福祉活動の推進・支援
事業名	サポート隊事業の推進

担当	社会教育課
----	-------

事業概要

地域で子どもたちを守り育てる運動の一環として、サポート隊員によって主に登下校時の見守りと声かけを地域全体で行います。

令和6年度の具体的な取り組み

地区社会教育委員などが中心となり、子どもたちが安全であるよう、サポート隊が登下校時での見守り、声かけ運動を行っている。

取り組みによる成果(地域共生社会・SDGs)

サポート隊による登下校の見守りや声かけ運動のおかげで、不審者などの防犯にも繋がり、子ども達が安心して生活を送ることができている。また、サポート隊も元気な子ども達の姿から、次の活動への意欲などに繋がっている。(SDGs目標17)

令和7年度に向けての課題や具体的な取り組み

引き続き、子ども達の安全な登下校の見守りや声かけ運動を行う。子どもに対し、サポート隊・県の声かけ運動、子ども110番の家など、子ども達を守る活動についての周知を、市広報、SNSや音声告知などで行う。

進捗状況及び自己評価

目標の内容		R3	R4	R5	R6	R7	R8	単位
登録者数	目標	1,050	1,060	1,070	1,080	1,090	1,100	人
	実績	987	969	911	836			
	達成度	94%	91.4%	85.1%	77.4%			

評価基準

点数	達成度	評価基準
5	100%	完了(目標達成)
4	75%	順調に進んでいる
3	50%	概ね順調。不十分な点あり
2	25%	一部実施あるが不十分多い
1	0%	実施方法含めた改善必要

自己評価
4

評価に対する内容説明

サポート隊の登録人数は減っているが、活動は問題なく行えているため。

御前崎市第4次地域福祉計画・地域福祉活動計画 評価個票

基本目標	1 お互いに支え合い安心して暮らせるまちづくり
施策の方向性	(1) 市民が主役になる小地域福祉活動の推進・支援
事業名	ささえあいサポーター事業

担当	市社協
----	-----

事業概要

登録制の市民同士の助け合い活動で、日常生活上のちょっとした困りごとをお手伝いする有償ボランティア活動です。

令和6年度の具体的な取り組み

市民児協、各支部社協、関係機関の会議等にて本事業のPRを実施した。
社協ホームページへの掲載、地区センターへポスター設置・チラシ配架を実施した。

取り組みによる成果(地域共生社会・SDGs)

新たな「支え手」が創出できる環境づくりに寄与している。
高齢になっても住み慣れた地域で暮らし続けることができる基盤を築けている。
(SDGs 目標3、目標11)

令和7年度に向けての課題や具体的な取り組み

積極的な広報活動を継続して行い、支援を必要としている方へ本サービスの情報が届くようにする。
ささえあいサポーターの連絡会を実施し、現場で活動している『ささえあいサポーター』の生の声を聴くことで、新たな取り組みを見出す。

進捗状況及び自己評価

目標の内容		R3	R4	R5	R6	R7	R8	単位
登録利用者数	目標	80	90	100	110	120	130	人
	実績	70	81	90	100			
	達成度	87.5%	90.0%	90.0%	91%			

評価基準

点数	達成度	評価基準
5	100%	完了(目標達成)
4	75%	順調に進んでいる
3	50%	概ね順調。不十分な点あり
2	25%	一部実施あるが不十分多い
1	0%	実施方法含めた改善必要

自己評価

4

評価に対する内容説明

登録利用者数の増加が、本事業の周知及び活用機会の増加に繋がることと考えている。

御前崎市第4次地域福祉計画・地域福祉活動計画 評価個票

基本目標	1 お互いに支え合い安心して暮らせるまちづくり
施策の方向性	(1) 市民が主役になる小地域福祉活動の推進・支援
事業名	自主財源の検討

担当	市社協
----	-----

事業概要

市社協の活動を継続していくため、現状の活動の充実を図るとともに、市社協独自の取り組みで財源が確保できるよう検討します。

令和6年度の具体的な取り組み

①ガチャガチャ寄付金事業：ボランティアによる手作り品だけでなく、市制20周年の缶バッジを作成し、市内各所に設置した。
 ②ひなたぼっこ：利用者増のためのPR(チラシ配布)や地域包括支援センターへの相談に加え、事業を継続していくための検討を進めた。

取り組みによる成果(地域共生社会・SDGs)

①ガチャガチャ寄付金事業：市民に募金活動の意識付け、ボランティア活動の機会創出、社協の認知度向上に寄与
 ②ひなたぼっこ：介護予防に結びつくための基盤づくりに寄与 (SDGs 目標3、4)

令和7年度に向けての課題や具体的な取り組み

ひなたぼっこの利用者が減少傾向であり、運営のための財源確保が困難になってきているため、いかに継続して運営をしていくか検討を重ねていくことが必要。

進捗状況及び自己評価

目標の内容		R3	R4	R5	R6	R7	R8	単位
事業	目標	事業 検討	事業 試行	事業 評価	事業 実施	事業 実施	事業 実施	
	実績	事業 試行	事業 試行	事業 評価	事業 実施			
	達成度	100%	100%	100%	100%			

評価基準

点数	達成度	評価基準
5	100%	完了(目標達成)
4	75%	順調に進んでいる
3	50%	概ね順調。不十分な点あり
2	25%	一部実施あるが不十分多い
1	0%	実施方法含めた改善必要

自己評価

5

評価に対する内容説明

事業概要の内容を実施できているため

御前崎市第4次地域福祉計画・地域福祉活動計画 評価個票

基本目標	1 お互いに支え合い安心して暮らせるまちづくり
施策の方向性	(1) 市民が主役になる小地域福祉活動の推進・支援
事業名	福祉懇談会の開催

担当	市社協
----	-----

事業概要

市民と一緒に地域課題や解決策を話し合います。

令和6年度の具体的な取り組み

8地区で福祉懇談会を開催した。テーマは各地区で挙げられ、健康寿命、これからの暮らしに関するものが中心となり、意見交換した。

取り組みによる成果(地域共生社会・SDGs)

地域で抱える問題、課題、解決案を住民で考える場を提供することで、住民が自分たちの地域について考えることができた。支部担当職員を配置しており、地域の課題や考えの共通認識が持っている。(SDGs目標3、目標11、目標17)

令和7年度に向けての課題や具体的な取り組み

毎年、各地区で議論した内容が会議内だけで終わらないよう、支部担当職員も声かけしながら地域の活動に反映させていく。

進捗状況及び自己評価

目標の内容		R3	R4	R5	R6	R7	R8	単位
実施回数(各地区)	目標	1回以上	1回以上	1回以上	1回以上	1回以上	1回以上	
	実績	1回	1回	1回以上	1回以上			
	達成度	100%	100%	100%	100%			

評価基準

点数	達成度	評価基準
5	100%	完了(目標達成)
4	75%	順調に進んでいる
3	50%	概ね順調。不十分な点あり
2	25%	一部実施あるが不十分多い
1	0%	実施方法含めた改善必要

自己評価

5

評価に対する内容説明

各地区で必要と思われるテーマを設定し、開催することができた。

御前崎市第4次地域福祉計画・地域福祉活動計画 評価個票

基本目標	1 お互いに支え合い安心して暮らせるまちづくり
施策の方向性	(2) 福祉関係団体(福祉団体・当事者団体・ボランティア団体)への支援
事業名	小中学校への認知症サポーター養成講座の開催

担当	高齢者支援課
----	--------

事業概要

認知症に関する正しい知識と理解を持って、認知症の人やその家族を手助けする「認知症キッズサポーター」を養成します。

令和6年度の具体的な取り組み

市内小学校・中学校へ認知症サポーター養成講座の開催について声掛けを行い、市内7校中5校で実施できた。内容については、学校やキャラバン・メイトと打合せを行い、寸劇やクイズ、紙芝居等を取り入れ、児童・生徒へわかりやすい内容となるように工夫を行った。

取り組みによる成果(地域共生社会・SDGs)

認知症を地域で支える地域共生社会の実現のため、市内児童・生徒への理解や学校ホームページや広報誌へ講座の様子を掲載してもらい、保護者への働きかけを行うことができた。(SDGs目標3、目標11、目標17)

令和7年度に向けての課題や具体的な取り組み

市内小学校・中学校全校での実施に向けて、各校へ働きかけを行っていく。講座の内容についてキャラバン・メイト連絡会で共有し、内容の充実を図る。

進捗状況及び自己評価

目標の内容		R3	R4	R5	R6	R7	R8	単位
受講人数	目標	540	510	520	510	490	510	人
	実績	0	445	443	404			
	達成度	0%	87.3%	85.2%	79.2%			

評価基準

点数	達成度	評価基準
5	100%	完了(目標達成)
4	75%	順調に進んでいる
3	50%	概ね順調。不十分な点あり
2	25%	一部実施あるが不十分多い
1	0%	実施方法含めた改善必要

自己評価
4

評価に対する内容説明

前年度と同様に市内小学校、中学校で講座を開催することができたが、児童数の減少により達成度が減少した。

御前崎市第4次地域福祉計画・地域福祉活動計画 評価個票

基本目標	1 お互いに支え合い安心して暮らせるまちづくり
施策の方向性	(2) 福祉関係団体(福祉団体・当事者団体・ボランティア団体)への支援
事業名	社会福祉法人等による公益事業に向けての情報交換会

担当	市社協
----	-----

事業概要

関係団体のつながりを強めながら、公益的な取り組みの実現に向け意見交換します。

令和6年度の具体的な取り組み

情報交換会を1月29日に実施し、出席した社会福祉法人間で今後の公益的な取組について意見交換した。

取り組みによる成果(地域共生社会・SDGs)

各法人の顔の見える関係作りに寄与で来ただけでなく、他市町の事例紹介を受け、令和7年度の活動のヒントが得られた。(SDGs 目標3、目標17)

令和7年度に向けての課題や具体的な取り組み

令和6年度に引き続き開催していく。本会で「ふくしなんでも相談会」を毎月開催していくことになった。この取組を各法人でも実施できるか確認し、ケースの共有などに発展させていきたい。開催内容によっては計画通り2回開催したい。

進捗状況及び自己評価

目標の内容		R3	R4	R5	R6	R7	R8	単位
年間開催数	目標	1	1	1	2	2	2	回
	実績	0	0	0	1			
	達成度	0%	0%	0%	50			

評価基準

点数	達成度	評価基準
5	100%	完了(目標達成)
4	75%	順調に進んでいる
3	50%	概ね順調。不十分な点あり
2	25%	一部実施あるが不十分多い
1	0%	実施方法含めた改善必要

自己評価
3

評価に対する内容説明

1回開催となったため、50%とする。

御前崎市第4次地域福祉計画・地域福祉活動計画 評価個票

基本目標	1 お互いに支え合い安心して暮らせるまちづくり
施策の方向性	(2) 福祉関係団体(福祉団体・当事者団体・ボランティア団体)への支援
事業名	関係機関とのネットワークづくり

担当	市社協
----	-----

事業概要

各機関の間を結び、1つの団体や施設では解決することが困難な課題について議論できる場をつくります。

令和6年度の具体的な取り組み

福祉団体連絡会を開催した。

取り組みによる成果(地域共生社会・SDGs)

参加団体同士の顔の見える関係づくりができ、また、会員減少や高齢化、団体の存続意義等について課題の共有と意見交換、各団体の事業の紹介等を行うことができた。(SDGs目標17)

令和7年度に向けての課題や具体的な取り組み

福祉団体連絡会の継続実施に加え、福祉団体以外のネットワークづくりのための会議体の開催を検討する。公益事業に向けての情報交換会の開催を通じて、社会福祉法人間のネットワーク強化を図る。

進捗状況及び自己評価

目標の内容		R3	R4	R5	R6	R7	R8	単位
事業	目標	事業検討	事業試行	事業評価	事業実施	事業実施	事業実施	
	実績	事業実施	事業実施	事業実施	事業実施			
	達成度	100%	100%	100%	100%			

評価基準

点数	達成度	評価基準
5	100%	完了(目標達成)
4	75%	順調に進んでいる
3	50%	概ね順調。不十分な点あり
2	25%	一部実施あるが不十分多い
1	0%	実施方法含めた改善必要

自己評価
5

評価に対する内容説明

顔の見える関係づくりと、各団体の抱える課題の共有と意見交換ができた為、達成度100%とした。

御前崎市第4次地域福祉計画・地域福祉活動計画 評価個票

基本目標	1 お互いに支え合い安心して暮らせるまちづくり
施策の方向性	(3) 災害時等の支援や防犯体制の強化
事業名	災害時避難行動要支援者名簿の更新

担当	福祉課
----	-----

事業概要

災害時に避難支援が必要となる人を支援するため、地域の関係者と連携して名簿の更新を行い掲載情報の充実を図ります。

令和6年度の具体的な取り組み

災害時避難行動要支援者対象者に向けて、名簿更新を行うとともに災害時個別避難計画の作成率を向上させる目的で、概要等を分かりやすく説明したチラシを作成した。
また、災害時避難行動要支援者名簿に登録済みの要支援者の中からモデルケースを定め、津波を想定した避難訓練を実施した。

取り組みによる成果(地域共生社会・SDGs)

災害時避難行動要支援者名簿を作成することにより、要支援者を把握し、災害時における支援に活用できるようになった。
また、新規対象者の情報を把握することで災害時に対応できるようになった。(SDGs目標3)
避難訓練により、地域・関係機関の連携が強固となり、課題点が明らかになった。

令和7年度に向けての課題や具体的な取り組み

モデルケースを定め、避難訓練を1件以上実施する。
実効性のある災害時個別避難計画の作成率を向上させる。
災害時避難行動要支援者に対する避難支援体制を構築するため、庁内外の連携を図る。

進捗状況及び自己評価

目標の内容		R3	R4	R5	R6	R7	R8	単位
①名簿掲載項目の充実 ②要支援者の登録支援	目標	①	②	②	②	②	②	
	実績	済	済	済	済			
	達成度	100%	100%	100%	100%			

評価基準

点数	達成度	評価基準
5	100%	完了(目標達成)
4	75%	順調に進んでいる
3	50%	概ね順調。不十分な点あり
2	25%	一部実施あるが不十分多い
1	0%	実施方法含めた改善必要

自己評価
5

評価に対する内容説明

災害時個別避難計画の作成率を向上させる目的で作成したチラシにより、本計画作成者数が前年度と比べて増加した。

御前崎市第4次地域福祉計画・地域福祉活動計画 評価個票

基本目標	1 お互いに支え合い安心して暮らせるまちづくり
施策の方向性	(3) 災害時等の支援や防犯体制の強化
事業名	市社協災害対策本部の設置

担当	市社協
----	-----

事業概要

大規模災害発生時に、迅速に市災害対策本部との連携や要支援者の安否確認ができる体制をつくります。

令和6年度の具体的な取り組み

災害ボランティア本部立上げ訓練を実施した。

取り組みによる成果(地域共生社会・SDGs)

過去の訓練や被災地支援の経験を踏まえた改善点を反映させることができた。昨年度に引き続き各自主防災会からの参加をしていただいた。企業からの参加もあった。様々な属性の方に災害ボランティア本部の周知をすることができた。(SDGs目標11、目標13)

令和7年度に向けての課題や具体的な取り組み

令和6年度に実施した方法を継続することに加え、現地調査の訓練を行い、より実践に近い訓練の実施を目指す。各自主防災会へは早い段階で参加の呼びかけをし、災害ボランティア本部の周知をしていく。

進捗状況及び自己評価

目標の内容		R3	R4	R5	R6	R7	R8	単位
市社協災害対策本部	目標	設置 検討	訓練 実施	訓練 実施	訓練 実施	訓練 実施	訓練 実施	
	実績	設置 検討	訓練 実施	訓練 実施	訓練 実施			
	達成度	25%	50%	50%	50%			

評価基準

点数	達成度	評価基準
5	100%	完了(目標達成)
4	75%	順調に進んでいる
3	50%	概ね順調。不十分な点あり
2	25%	一部実施あるが不十分多い
1	0%	実施方法含めた改善必要

自己評価
3

評価に対する内容説明

マニュアルの完成には至っていないが、完成に向けた会議や訓練など具体的な活動が実施できたため。

御前崎市第4次地域福祉計画・地域福祉活動計画 評価個票

基本目標	1 お互いに支え合い安心して暮らせるまちづくり
施策の方向性	(3) 災害時等の支援や防犯体制の強化
事業名	災害ボランティアコーディネーター養成講座

担当	市社協
----	-----

事業概要

災害ボランティア本部の運営ができるボランティアを養成し、発災後の復興支援に貢献します。

令和6年度の具体的な取り組み

講義内容の見直しを本会の職員の被災地派遣経験と静岡県社会福祉協議会からの情報提供をもとに実施した。
仕事をしている方等で申込の電話や申込書を窓口に出しにくい方に向けてQRコードを活用した申込フォームを作成した。

取り組みによる成果(地域共生社会・SDGs)

全体の参加者が15名と昨年の約2倍の人数であった。
資料や説明についてはわかりやすいものになった。
15名中全ての講義を修了した4名の方が新たに災害ボランティアコーディネーターの認定を受けた。
(SDGs目標11、目標13)

令和7年度に向けての課題や具体的な取り組み

早い時期から広報を実施し、受講人数の増加を目指す。
開催スケジュールを見直し、参加しやすい時間での開催を目指す。

進捗状況及び自己評価

目標の内容		R3	R4	R5	R6	R7	R8	単位
災害ボランティア コーディネーター数	目標	45	50	55	60	65	70	人
	実績	37	45	32	34			
	達成度	82.2%	90%	58.2%	56%			

評価基準

点数	達成度	評価基準
5	100%	完了(目標達成)
4	75%	順調に進んでいる
3	50%	概ね順調。不十分な点あり
2	25%	一部実施あるが不十分多い
1	0%	実施方法含めた改善必要

自己評価
3

評価に対する内容説明

年齢等の理由により、登録解除者がいた。
新規で4名が新たに登録をしたため、増減があり、32名となっている。

御前崎市第4次地域福祉計画・地域福祉活動計画 評価個票

基本目標	2 市民一人ひとりが積極的に地域福祉に参加するまちづくり
施策の方向性	(1) 支え合う心を育むための地域福祉教育の推進・支援
事業名	中学生や高校生に対するデートDV講座の開催

担当	福祉課
----	-----

事業概要

将来暴力の加害者や被害者にならないよう、人を思いやる心を培うため、デートDVについての研修を行います。

令和6年度の具体的な取り組み

市内の高校生を対象に、デートDV講座を実施した。
 なお、知識を深めるため、本講座を2回に分けて実施し、暴力や性に関する教育を行った。
 講座前後にデートDVに関するアンケートを実施し、回答結果を学校と共有した。また、一般向け対象にもDV講座を1回実施した。

取り組みによる成果(地域共生社会・SDGs)

講座前後に実施したアンケートにおいて、DVについて理解している人や相手の気持ちを考えて行動しようとする人が増加した。
 (SDGs目標3)

令和7年度に向けての課題や具体的な取り組み

引き続き、学生だけでなく大人向けにも講座を実施し、より幅広い世代の方々がDVに関する知識を深める機会をつくる。
 中高生向けの講座の開催機会を増やすべく、学校との連携を深める。

進捗状況及び自己評価

目標の内容		R3	R4	R5	R6	R7	R8	単位
①対象を高校生まで拡充	目標	①	②	②	③	③	③	
②研修実施・評価	実績	済	済	済	済			
③研修実施・見直し	達成度	100%	100%	100%	100%			

評価基準

点数	達成度	評価基準
5	100%	完了(目標達成)
4	75%	順調に進んでいる
3	50%	概ね順調。不十分な点あり
2	25%	一部実施あるが不十分多い
1	0%	実施方法含めた改善必要

自己評価
5

評価に対する内容説明

前年度に引き続き、高校生向けや一般向けのデートDV講座を開催し、より多くの方に知識を深めてもらうことができた。

御前崎市第4次地域福祉計画・地域福祉活動計画 評価個票

基本目標	2 市民一人ひとりが積極的に地域福祉に参加するまちづくり
施策の方向性	(1) 支え合う心を育むための地域福祉教育の推進・支援
事業名	地域福祉教育出前講座

担当	市社協
----	-----

事業概要

地域の様々な場所で福祉に関する学習ができる場を提供します。

令和6年度の具体的な取り組み

中部電力(株)から出前講座の依頼があったため、開催した。内容は、福祉車両の使用方法、車いすの操作方法、車いすを使った移乗方法を実施した。車イスや高齢者体験キット等の貸し出し依頼があった。

取り組みによる成果(地域共生社会・SDGs)

福祉教育を通じて、企業内の福祉活動の発展に寄与できている。学校では、外部講師を呼んでの福祉教育が実施されている。(SDGs目標3)

令和7年度に向けての課題や具体的な取り組み

学校から車イスや高齢者体験キット等の貸し出し依頼があったが、出前講座の依頼は0件であった。そのため、福祉教育連絡会等の場で、市内学校などに出前講座の広報をし、開催回数の増加に努める。

進捗状況及び自己評価

目標の内容		R3	R4	R5	R6	R7	R8	単位
開催回数	目標	2	3	4	5	8	10	回
	実績	0	2	1	1			
	達成度	0%	66.7%	25.0%	20.0%			

評価基準

点数	達成度	評価基準
5	100%	完了(目標達成)
4	75%	順調に進んでいる
3	50%	概ね順調。不十分な点あり
2	25%	一部実施あるが不十分多い
1	0%	実施方法含めた改善必要

自己評価
2

評価に対する内容説明

市内企業(中部電力(株))からの依頼が1件

御前崎市第4次地域福祉計画・地域福祉活動計画 評価個票

基本目標	2 市民一人ひとりが積極的に地域福祉に参加するまちづくり
施策の方向性	(1) 支え合う心を育むための地域福祉教育の推進・支援
事業名	地域福祉教育の実施

担当	市社協
----	-----

事業概要

若い世代に対する福祉教育の学習機会を増やすことを目的に、学習内容の検討や各機関へ協力の呼びかけができるように検討・実施します。

令和6年度の具体的な取り組み

池新田高校の生徒に向けた福祉体験講座を5回実施した。テーマは災害ボランティアについて、視覚障がいについて、介護について、ヤングケアラーについて、赤ちゃんについてである。

取り組みによる成果(地域共生社会・SDGs)

実際に福祉の現場に立つ方を講師に迎えることにより具体的、実践的な講義内容であった。生徒たちは日常生活ではできない体験をしたり見聞きすることによって、自分なりの福祉への理解を深めることができ、福祉への関心を高めるきっかけづくりができた。
また、子ども分野の内容を実施することができた。
(SDGs目標3、目標4)

令和7年度に向けての課題や具体的な取り組み

福祉教育は座学だけでなく、実際に体験することや、地域で活躍している方と交流することが大切であるため、継続していきたい。
新型コロナウイルス感染拡大などの影響により、講師の方と対面しての福祉教育が、実施しにくい状況があったため、感染拡大状況を注視しながら、学校と相談をし、講師の方と対面しての福祉教育を開催していきたい。
子ども分野の福祉教育は例年計画にあるが、開催できていなかった。令和6年度に開催ができたため、継続した開催を目指す。

進捗状況及び自己評価

目標の内容		R3	R4	R5	R6	R7	R8	単位
事業	目標	事業 検討	事業 実施	事業 評価	事業 改善	事業 改善	事業 改善	
	実績	事業 実施	事業 実施	事業 実施	事業 実施			
	達成度	100%	100%	100%	100%			

評価基準

点数	達成度	評価基準
5	100%	完了(目標達成)
4	75%	順調に進んでいる
3	50%	概ね順調。不十分な点あり
2	25%	一部実施あるが不十分多い
1	0%	実施方法含めた改善必要

自己評価

5

評価に対する内容説明

学校内で福祉教育に関する体験講座を実施することは、生徒にとって貴重な機会となっている。毎年度、学校と計画をたて、継続した実施ができています。

御前崎市第4次地域福祉計画・地域福祉活動計画 評価個票

基本目標	2 市民一人ひとりが積極的に地域福祉に参加するまちづくり
施策の方向性	(2) 多くの市民の地域福祉活動への参加の促進
事業名	ボランティアコーディネーター事業

担当	市社協
----	-----

事業概要

ボランティア活動を「したい人」と「してほしい人」を結びつけ、市内のボランティア活動を活発にします。

令和6年度の具体的な取り組み

ボランティア活動希望者とボランティアを募集している事業所とのマッチングを実施した。
市内事業所が実施する活動にボランティアとして、市内の中学校、高等学校に声をかけ、各学校の生徒とのマッチングを実施した。

取り組みによる成果(地域共生社会・SDGs)

ボランティア相談者からの相談に対し、連絡調整を行い、希望する施設でのボランティア活動に結びつけることができた。施設からのボランティア募集に対しても個人ボランティアや団体に加え、学校に声をかけて生徒に参加していただき、学校や生徒とのつながりができた。(SDGs目標3、目標17)

令和7年度に向けての課題や具体的な取り組み

ボランティア関係事業などで呼びかけを行い、社協登録個人ボランティアの増加を目指す。
学生のボランティア参加数が増加傾向であるため、学校への呼びかけを継続していく。
ホームページや社協だよりを活用し、ボランティア相談についての広報を実施する。

進捗状況及び自己評価

目標の内容		R3	R4	R5	R6	R7	R8	単位
相談件数	目標	30	35	40	45	50	55	件
	実績	7	5	8	8			
	達成度	23.3%	14.3%	20%	13%			

評価基準

点数	達成度	評価基準
5	100%	完了(目標達成)
4	75%	順調に進んでいる
3	50%	概ね順調。不十分な点あり
2	25%	一部実施あるが不十分多い
1	0%	実施方法含めた改善必要

自己評価
1

評価に対する内容説明

相談件数は昨年度と同じであった。大学生から長期的なボランティア相談があり、適切に活動につなぐことができた。施設からも昨年度に引き続き相談を受けた。

御前崎市第4次地域福祉計画・地域福祉活動計画 評価個票

基本目標	2 市民一人ひとりが積極的に地域福祉に参加するまちづくり
施策の方向性	(2) 多くの市民の地域福祉活動への参加の促進
事業名	ボランティア活動に対する情報発信

担当	市社協
----	-----

事業概要

従来の紙媒体に加え、SNS(ソーシャルネットワークサービス)を活用してボランティア情報を発信します。

令和6年度の具体的な取り組み

社協だより及び社協ホームページを中心に、ボランティア活動の紹介や通知を実施した。
市の公式LINE及びケーブルテレビを活用した情報発信を実施した。
参加申込方法としてGoogleフォームを活用した。

取り組みによる成果(地域共生社会・SDGs)

年度間を通して、様々な事業に対し、ボランティアとして、福祉団体、ボランティア団体、中学生、高校生、大学生、団体等に属していない一般の方、個人ボランティアの参加があった。
(SDGs目標3)

令和7年度に向けての課題や具体的な取り組み

社協だより及び社協ホームページを活用した広報を継続して実施する。
市の公式LINE及びケーブルテレビを活用した情報発信を継続して実施する。
Googleフォームの活用を継続して行う。

進捗状況及び自己評価

目標の内容		R3	R4	R5	R6	R7	R8	単位
社協ボランティア登録者数	目標	75	80	85	90	95	100	人
	実績	85	94	83	56			
	達成度	100%	100%	97.6%	62%			

評価基準

点数	達成度	評価基準
5	100%	完了(目標達成)
4	75%	順調に進んでいる
3	50%	概ね順調。不十分な点あり
2	25%	一部実施あるが不十分多い
1	0%	実施方法含めた改善必要

自己評価
4

評価に対する内容説明

既存の個人ボランティアに対し、意向調査を実施し、高齢や仕事の転勤等の理由で登録解除となった方がいたため、減少している。新規は3名の登録があった。

御前崎市第4次地域福祉計画・地域福祉活動計画 評価個票

基本目標	2 市民一人ひとりが積極的に地域福祉に参加するまちづくり
施策の方向性	(3) 地域福祉を身近に感じるための啓発活動の推進
事業名	ゲートキーパー養成講座

担当	福祉課
----	-----

事業概要

市民の自殺に対する関心と理解を深め、自殺対策の担い手になってもらうために、ゲートキーパー養成講座を開催します。

令和6年度の具体的な取り組み

御前崎市役所新規採用職員と日本特殊塗料株式会社浜岡工場職員を対象にゲートキーパー養成講座を2回実施した。受講者は計71名。

取り組みによる成果(地域共生社会・SDGs)

受講者がゲートキーパー養成講座を修了したことにより、自殺の現状や対策に対する理解が広まり、こころに不調のある人を地域で支える体制が強化された。(SDGs目標3)

令和7年度に向けての課題や具体的な取り組み

御前崎市の自殺者の特徴として、働き世代の有職男性が多いため、市内の企業向け講座を開催できるよう、引き続き企業へ周知を行う。

進捗状況及び自己評価

目標の内容		R3	R4	R5	R6	R7	R8	単位
開催回数	目標	2	4	6	8	10	12	回
	実績	3	3	3	2			
	達成度	100%	75%	50%	25%			

評価基準

点数	達成度	評価基準
5	100%	完了(目標達成)
4	75%	順調に進んでいる
3	50%	概ね順調。不十分な点あり
2	25%	一部実施あるが不十分多い
1	0%	実施方法含めた改善必要

自己評価
2

評価に対する内容説明

市役所職員や市内企業に対し、自殺対策に関する理解を深めることができた。(目標設定を累計と勘違いし設定した。)

御前崎市第4次地域福祉計画・地域福祉活動計画 評価個票

基本目標	2 市民一人ひとりが積極的に地域福祉に参加するまちづくり
施策の方向性	(3) 地域福祉を身近に感じるための啓発活動の推進
事業名	手話奉仕員養成講座

担当	福祉課
----	-----

事業概要

手話言語条例推進の一環として、聴覚障がいを持つ人などに関する福祉制度の理解と、手話での日常会話や表現技術を学ぶため手話奉仕員養成講座を開催します。

令和6年度の具体的な取り組み

小笠ろうあ協会及び御前崎市手話通訳者協議会からなる講師団と協議のうえ、手話奉仕員養成講座を未実施とした。未実施に伴い、初心者手話講習会を1回から5回に拡大した。初心者に向けた学習の機会を確保できた。

取り組みによる成果(地域共生社会・SDGs)

未実施のため成果なし。(SDGs目標3)

令和7年度に向けての課題や具体的な取り組み

講師団と協議の結果、2年度(令和7年度・令和8年度)に分けての実施とした。講師一人一人の負担が軽減されるよう、送迎等の対応する。令和7年9月開講は入門編をし、令和8年度は基礎編を実施予定。ろう講師の高齢化及び、聞こえる講師の少数化が加速しているため、近隣市との共同開催も視野に入れていきたい。

進捗状況及び自己評価

目標の内容		R3	R4	R5	R6	R7	R8	単位
手話奉仕員数	目標	5	6	7	8	9	10	人
	実績	3	6	6	0			
	達成度	60%	100%	85.7%	0%			

評価基準

点数	達成度	評価基準
5	100%	完了(目標達成)
4	75%	順調に進んでいる
3	50%	概ね順調。不十分な点あり
2	25%	一部実施あるが不十分多い
1	0%	実施方法含めた改善必要

自己評価

評価に対する内容説明

1

未実施により未達成とする。

御前崎市第4次地域福祉計画・地域福祉活動計画 評価個票

基本目標	2 市民一人ひとりが積極的に地域福祉に参加するまちづくり
施策の方向性	(3) 地域福祉を身近に感じるための啓発活動の推進
事業名	おまえざき社協だよりの発行

担当	市社協
----	-----

事業概要

市社協の広報誌を事業所などに設置し、市社協事業の周知を図ります。

令和6年度の具体的な取り組み

年に5回、社協だよりを発行した。
町内会、社協会費協力企業、市内施設へ主に配布した。
レイアウトの見直しを行い、お知らせや活動報告のコーナーを設け、読んでもらいやすい紙面づくりを行った。
活動報告のコーナーで、社協の取り組みを写真付きで伝えることで、福祉活動を身近に感じてもらえるよう工夫した。

取り組みによる成果(地域共生社会・SDGs)

ボランティア活動、共同募金、フードバンクなど福祉に関する様々な情報を発信することで、地域住民からの多くの協力が得られた。また、地域住民が福祉に触れることのできる機会を増やすことにも寄与した。(SDGsの目標3, 目標17)

令和7年度に向けての課題や具体的な取り組み

紙面のスペースには限りがあるため、詳細は社協のホームページで確認できるような仕組みを作る。

進捗状況及び自己評価

目標の内容		R3	R4	R5	R6	R7	R8	単位
設置場所数	目標	27	32	37	42	47	52	か所
	実績	21	25	35	35			
	達成度	77.7%	78.1%	94.6%	83.3%			

評価基準

点数	達成度	評価基準
5	100%	完了(目標達成)
4	75%	順調に進んでいる
3	50%	概ね順調。不十分な点あり
2	25%	一部実施あるが不十分多い
1	0%	実施方法含めた改善必要

自己評価
3

評価に対する内容説明

令和5年度、スーパー等の設置場所を増やした分、令和6年度は増やせる場所が限られ現状維持になっている。

御前崎市第4次地域福祉計画・地域福祉活動計画 評価個票

基本目標	3 住み慣れた地域で健康でいきいきと暮らせるまちづくり
施策の方向性	(1) 困ったときに気軽に相談できる包括的な相談支援体制の充実
事業名	包括的な相談窓口の充実

担当	福祉課
----	-----

事業概要

市民からの様々な相談に対応するため、断らない相談窓口の機能の充実を図ります。

令和6年度の具体的な取り組み

静岡県主催する多機関連携事業市町担当者会議と包括的相談支援構築市町会議に関係課と一緒に出席し、他市町と意見交換を行った。

取り組みによる成果(地域共生社会・SDGs)

包括的な相談支援体制について、他市町の取組状況や理解を深めることができた。(SDGs目標3)

令和7年度に向けての課題や具体的な取り組み

重層的支援体制整備事業の移行準備事業を活用し、令和8年度から重層的支援体制整備事業を実施できるよう、準備を進める。

進捗状況及び自己評価

目標の内容		R3	R4	R5	R6	R7	R8	単位
①窓口増設(試行)	目標	現状分析	検討会開催	検討会開催	①	②	②	
	実績	現状分析	実施	実施	未実施			
②窓口増設(実施)	達成度	75%	100%	100%	0%			

評価基準

点数	達成度	評価基準
5	100%	完了(目標達成)
4	75%	順調に進んでいる
3	50%	概ね順調。不十分な点あり
2	25%	一部実施あるが不十分多い
1	0%	実施方法含めた改善必要

自己評価

1

評価に対する内容説明

未実施により未達成とする。

御前崎市第4次地域福祉計画・地域福祉活動計画 評価個票

基本目標	3 住み慣れた地域で健康でいきいきと暮らせるまちづくり
施策の方向性	(1) 困ったときに気軽に相談できる包括的な相談支援体制の充実
事業名	生活困窮者自立支援法に基づく支援会議の設置

担当	福祉課
----	-----

事業概要

多様化する相談に対応するため、関係機関同士の情報共有ができる場を設置するとともに、個人情報の保護に努めます。

令和6年度の具体的な取り組み

「御前崎市生活困窮者支援会議設置要綱」に基づき、会議の構成員に対する守秘義務を設け、構成員同士が安心して生活困窮者に関する情報共有を図ることができた。また、複数課にまたがるような複合的な課題を抱えるケースへの具体的な支援策を検討することができた。

取り組みによる成果(地域共生社会・SDGs)

生活困窮を理由として複合的な課題を抱えるケースの情報共有を図るため、定期的(毎月1回)に支援会議を開催することで、各関係機関がそれぞれ把握している情報を基に、必要な支援方針を検討することができた。(SDGs目標1)

令和7年度に向けての課題や具体的な取り組み

地域や社会から孤立し、長期の引きこもり等による不就労者や過去の経験等から行政機関へ相談することに心理的な抵抗感がある人など、具体的な支援につながっていない生活困窮者に対し自立の促進を図る支援が必要である。これらの多様化した課題解決に向け、各関係機関と検討の場を設け、継続的に必要な情報共有を図っていくことが重要である。

進捗状況及び自己評価

目標の内容		R3	R4	R5	R6	R7	R8	単位
①関係機関との調整 ②設置要綱策定 ③支援会議の開催	目標	①	②	③	③	③	③	
	実績	調整済	完了	完了	完了			
	達成度	100%	100%	100%	100%			

評価基準

点数	達成度	評価基準
5	100%	完了(目標達成)
4	75%	順調に進んでいる
3	50%	概ね順調。不十分な点あり
2	25%	一部実施あるが不十分多い
1	0%	実施方法含めた改善必要

自己評価
5

評価に対する内容説明

御前崎市生活困窮者支援会議設置要綱を定め、定期的に関係機関との調整を図ることで、具体的なケースへの支援を検討することができた。

御前崎市第4次地域福祉計画・地域福祉活動計画 評価個票

基本目標	3 住み慣れた地域で健康でいきいきと暮らせるまちづくり
施策の方向性	(1) 困ったときに気軽に相談できる包括的な相談支援体制の充実
事業名	就職氷河期世代支援に係る市町村プラットフォームの設置

担当	福祉課
----	-----

事業概要

官民が協働して、社会参加に向けた支援を必要とする人に対する具体的な支援プランの作成や情報共有ができる場を設置します。

令和6年度の具体的な取り組み

支援会議の場を活用し、定期的に各関係機関の担当者が相互に連絡及び情報共有を図ることができた。

取り組みによる成果(地域共生社会・SDGs)

会議を定期的を開催することにより、個々のケースに応じた関係機関が相互・適時、情報共有を図り支援を行うことができた。(SDGs 目標1)

令和7年度に向けての課題や具体的な取り組み

支援が必要なケースにおいては、それぞれの状況が異なり多種多様な課題を抱えており、これらのケースへは個々に必要な支援も異なることから、各ケースに応じた支援方針の検討等を継続的かつ定期的に行っていく。また、ハローワークや地域若者サポートステーション等の関係機関との情報共有にも努めていく。

進捗状況及び自己評価

目標の内容		R3	R4	R5	R6	R7	R8	単位
①関係機関との調整 ②設置要綱策定 ③会議の実施	目標	①	①	②	③	③	③	
	実績	調整済	完了	完了	完了			
	達成度	100%	100%	100%	100%			

評価基準

点数	達成度	評価基準
5	100%	完了(目標達成)
4	75%	順調に進んでいる
3	50%	概ね順調。不十分な点あり
2	25%	一部実施あるが不十分多い
1	0%	実施方法含めた改善必要

自己評価
5

評価に対する内容説明

地域における各ケースへの対応方針の検討や情報共有が行える場を設けるとともに、これを機能させ具体的な支援を行うことができた。

御前崎市第4次地域福祉計画・地域福祉活動計画 評価個票

基本目標	3 住み慣れた地域で健康でいきいきと暮らせるまちづくり
施策の方向性	(1) 困ったときに気軽に相談できる包括的な相談支援体制の充実
事業名	成年後見制度利用促進事業

担当	高齢者支援課・福祉課
----	------------

事業概要

関係機関及び専門職と連携し、権利擁護が必要な人をチームで支える、地域連携ネットワークの構築に努めます。

令和6年度の具体的な取り組み

単独の中核機関を御前崎市社会福祉協議会に委託し、毎月事例検討会を実施し、ケース共有や支援方針の検討を実施した。
 広域の中核機関では、弁護士等が参加する事例検討会を月1回実施し、2次スクリーニングや受任調整を行った。
 司法書士との勉強会を実施した。(年4回)

取り組みによる成果(地域共生社会・SDGs)

単独の中核機関を御前崎市社会福祉協議会に委託できたことにより、関係機関等と連携を取り早期に介入できる体制整備ができた。
 権利擁護が必要な対象者に対して、専門家(弁護士等)の意見を聞くことで、適切な支援を行うことができる。
 (SDGs 目標3、目標10、目標17)

令和7年度に向けての課題や具体的な取り組み

令和7年度から3市広域中核機関の幹事市が御前崎市となるため、広域中核機関の業務委託を行う。
 第5期市民後見人養成講座を開催する。
 権利擁護が必要な方にとって、より良い支援ができるよう、掛川市、菊川市と広域で事例検討会を実施する。
 家庭裁判所や社会福祉協議会と連携し、市民後見人が活躍できる場やネットワーク構築の推進を図る。

進捗状況及び自己評価

目標の内容		R3	R4	R5	R6	R7	R8	単位
①中核機関設置準備委員会 立上げ ②中核機関設置	目標	①	②	②	②	②	②	
	実績	済	済	済	済			
	達成度	100%	100%	100%	100%			

評価基準

点数	達成度	評価基準
5	100%	完了(目標達成)
4	75%	順調に進んでいる
3	50%	概ね順調。不十分な点あり
2	25%	一部実施あるが不十分多い
1	0%	実施方法含めた改善必要

自己評価
5

評価に対する内容説明

御前崎市単独での中核機関を御前崎市社会福祉協議会に委託し、相談支援体制が強化できた。

御前崎市第4次地域福祉計画・地域福祉活動計画 評価個票

基本目標	3 住み慣れた地域で健康でいきいきと暮らせるまちづくり
施策の方向性	(1) 困ったときに気軽に相談できる包括的な相談支援体制の充実
事業名	福祉総合相談所の開設

担当	市社協
----	-----

事業概要

断らない相談窓口として、相談者の困りごとを聴き、必要な助言及び関係機関との情報共有を実施します。

令和6年度の具体的な取り組み

社協が取り扱っている相談支援体制(生活困窮者自立支援制度、生活福祉資金制度、日常生活自立支援事業、法人後見事業)の入口として、断らない相談の対応を進めている。

取り組みによる成果(地域共生社会・SDGs)

どのような相談についても、必要な相談事業へつなげることや、社協だけでは困難なケースは市やその他機関と相談する体制がとれている。(SDGs目標3、目標16)

令和7年度に向けての課題や具体的な取り組み

複数の事業や制度に関わるケースもあるため、各事業間の情報共有や連携を深める。
また、「ふくしなんでも相談会」を毎月開催することにした。ここで得られたケースについても他機関と共有できる仕組みを作っていく。

進捗状況及び自己評価

目標の内容		R3	R4	R5	R6	R7	R8	単位
福祉総合相談所の開設	目標	実施	実施	実施	実施	実施	実施	
	実績	実施	実施	実施	実施			
	達成度	100%	100%	100%	100%			

評価基準

点数	達成度	評価基準
5	100%	完了(目標達成)
4	75%	順調に進んでいる
3	50%	概ね順調。不十分な点あり
2	25%	一部実施あるが不十分多い
1	0%	実施方法含めた改善必要

自己評価
5

評価に対する内容説明

昨年度から継続して実施できている。

御前崎市第4次地域福祉計画・地域福祉活動計画 評価個票

基本目標	3 住み慣れた地域で健康でいきいきと暮らせるまちづくり
施策の方向性	(1) 困ったときに気軽に相談できる包括的な相談支援体制の充実
事業名	包括的な相談窓口の充実

担当	市社協
----	-----

事業概要

市や関係機関と様々な相談案件について、情報交換ができる体制整備に努めます。

令和6年度の具体的な取り組み

市の包括的支援体制への取り組みについて、情報共有を継続している。

取り組みによる成果(地域共生社会・SDGs)

包括的相談支援体制(重層的相談支援事業)の実現に向けた準備を進められている。(SDGs目標3、目標16)

令和7年度に向けての課題や具体的な取り組み

市の実施に連携した活動ができるよう、情報共有を継続していく。

進捗状況及び自己評価

目標の内容		R3	R4	R5	R6	R7	R8	単位
包括的な相談窓口の充実	目標	現状分析	検討	検討	事業 試行	事業 実施	事業 実施	
	実績	現状分析	検討	検討	検討			
	達成度	100%	75%	75%	75%			

評価基準

点数	達成度	評価基準
5	100%	完了(目標達成)
4	75%	順調に進んでいる
3	50%	概ね順調。不十分な点あり
2	25%	一部実施あるが不十分多い
1	0%	実施方法含めた改善必要

自己評価

4

評価に対する内容説明

事業の試行ができていないため

御前崎市第4次地域福祉計画・地域福祉活動計画 評価個票

基本目標	3 住み慣れた地域で健康でいきいきと暮らせるまちづくり
施策の方向性	(1) 困ったときに気軽に相談できる包括的な相談支援体制の充実
事業名	生活困窮者自立支援事業(市から受託)

担当	市社協
----	-----

事業概要

相談者の抱える生活上の様々な困りごとに対して話を聴きながら、自立した生活が送ることができるように支援します。

令和6年度の具体的な取り組み

生活福祉資金制度や他機関との連携により継続的な相談支援に移行することができた。また、ケースにより同行支援等を実施。相談者の状況に合わせた支援を行うことができた。

取り組みによる成果(地域共生社会・SDGs)

課題を抱えている住民に継続的に関わり、住民と一緒に課題を解決していく姿勢がとれている。他機関との連携や同行支援等の面談以外の支援により、相談者自身が課題解決に動くことができた。(SDGs 目標1、目標2、目標3)

令和7年度に向けての課題や具体的な取り組み

社協単体では解決しない課題の表出が増えている。より幅広く他機関と連携するとともに、相談者自身が課題を解決できるよう必要なサポートをする。

進捗状況及び自己評価

目標の内容		R3	R4	R5	R6	R7	R8	単位
相談件数	目標	30	40	50	60	70	80	件
	実績	26	162	167	314			
	達成度	86.6%	100	100%	100%			

評価基準

点数	達成度	評価基準
5	100%	完了(目標達成)
4	75%	順調に進んでいる
3	50%	概ね順調。不十分な点あり
2	25%	一部実施あるが不十分多い
1	0%	実施方法含めた改善必要

※当初は相談人数だったが、R4からのべ相談件数に実績件数を変更している

自己評価

5

評価に対する内容説明

相談者だけでなく他機関とのやり取りも増加。連携体制の強化を進めることができた。

御前崎市第4次地域福祉計画・地域福祉活動計画 評価個票

基本目標	3 住み慣れた地域で健康でいきいきと暮らせるまちづくり
施策の方向性	(1) 困ったときに気軽に相談できる包括的な相談支援体制の充実
事業名	法人後見事業

担当	市社協
----	-----

事業概要

判断能力が不十分になった人に対する身上保護や支援を実施し、その方の権利を守ります。

令和6年度の具体的な取り組み

2件新規受任となった(後見類型・補助類型)
後見業務の実務での課題を、中核機関の事例検討会で法律専門職の委員に助言をいただき、円滑な後見業務を実施できた。

取り組みによる成果(地域共生社会・SDGs)

財産管理や身上保護を通じて、被後見人となった住人の権利を守りながら、安定した生活が送れるよう支援ができています。(SDGs目標16)

令和7年度に向けての課題や具体的な取り組み

被後見人等への安定した支援を継続する。
市民後見人名簿登録者が、市民後見人として活動できるよう支援する。

進捗状況及び自己評価

目標の内容		R3	R4	R5	R6	R7	R8	単位
受任件数	目標	2	3	3	3	3	3	件
	実績	3	3	4	4			
	達成度	100%	100%	100%	100%			

評価基準

点数	達成度	評価基準
5	100%	完了(目標達成)
4	75%	順調に進んでいる
3	50%	概ね順調。不十分な点あり
2	25%	一部実施あるが不十分多い
1	0%	実施方法含めた改善必要

自己評価
5

評価に対する内容説明

安定した支援ができています。

御前崎市第4次地域福祉計画・地域福祉活動計画 評価個票

基本目標	3 住み慣れた地域で健康でいきいきと暮らせるまちづくり
施策の方向性	(2) 誰もが健康でいきいきと暮らせる仕組みづくり
事業名	地域子育て支援センター事業

担当	こども未来課
----	--------

事業概要

地域の子育て家庭に対する育児支援を行い、子どもの健やかな育ちを促進します。

令和6年度の具体的な取り組み

高齢者と行事を通じた交流（七夕・敬老の日・餅つき）
 ペアレントプログラムの実施（市主催）
 譲り合いリサイクル活動
 同年齢の子供を持つ母親たちが交流できる日の設定
 講習会の実施（支援センターを利用している、または利用していた保護者に講師を依頼）

取り組みによる成果(地域共生社会・SDGs)

親子で楽しむ場の提供・交流の場を設けることで、子育ての悩みを共有し相談できる環境が作られている。講習会については、保護者が講師になることで、母親たちがリフレッシュできる内容を取り上げることが出来ている。
 譲り合いリサイクル活動により、不要になった衣類、おもちゃ等の物々交換をすることで再利用が出来ている。(SDGs目標3)

令和7年度に向けての課題や具体的な取り組み

ホームページ、公式LINE等の活用により、子育て支援センターの周知に努め、利用者の増加に取り組む。
 利用者の家庭状況の把握と関連機関との情報の共有を図る。
 イベント内容及び回数を検討する。
 緊急一時預かりとフロアを共有している為、運営方法について検討の必要がある。

進捗状況及び自己評価

目標の内容		R3	R4	R5	R6	R7	R8	単位
月当たり延利用人数	目標	1,524	1,531	1,467	1,421	1,379	1,338	人
	実績	609	654	632	621			
	達成度	39.9%	42.7%	43.1%	43.7%			

評価基準

点数	達成度	評価基準
5	100%	完了(目標達成)
4	75%	順調に進んでいる
3	50%	概ね順調。不十分な点あり
2	25%	一部実施あるが不十分多い
1	0%	実施方法含めた改善必要

自己評価

評価に対する内容説明

2

出生数の減少などもあり、延利用人数は目標値に届かない状況である。

御前崎市第4次地域福祉計画・地域福祉活動計画 評価個票

基本目標	3 住み慣れた地域で健康でいきいきと暮らせるまちづくり
施策の方向性	(2) 誰もが健康でいきいきと暮らせる仕組みづくり
事業名	ヘルプマーク啓発事業

担当	福祉課
----	-----

事業概要

市広報誌・班回覧・音声告知などを通じて市民への周知啓発を行い、必要とする人が利用しやすい環境を整えます。

令和6年度の具体的な取り組み

御前崎市ふれあい広場にて周知した。
福祉課窓口にチラシとポスターを掲示した。
ホームページにヘルプマークについての情報を掲載し、周知を継続した。

取り組みによる成果(地域共生社会・SDGs)

ヘルプマークの周知が進み、必要とする人が利用できるようになった。(SDGs目標3)

令和7年度に向けての課題や具体的な取り組み

ホームページでのヘルプマークの周知を継続し、また、LINEを活用して周知を図っていく。

進捗状況及び自己評価

目標の内容		R3	R4	R5	R6	R7	R8	単位
交付枚数	目標	20	22	24	26	28	30	枚
	実績	14	43	31	41			
	達成度	70%	100%	100%	100%			

評価基準

点数	達成度	評価基準
5	100%	完了(目標達成)
4	75%	順調に進んでいる
3	50%	概ね順調。不十分な点あり
2	25%	一部実施あるが不十分多い
1	0%	実施方法含めた改善必要

自己評価

5

評価に対する内容説明

前年度より交付枚数は減少したが、周知が進んできているため目標値を超えた。

御前崎市第4次地域福祉計画・地域福祉活動計画 評価個票

基本目標	3 住み慣れた地域で健康でいきいきと暮らせるまちづくり
施策の方向性	(2) 誰もが健康でいきいきと暮らせる仕組みづくり
事業名	介護予防・日常生活支援総合事業

担当	市社協
----	-----

事業概要

住み慣れた家でいつまでも健康で過ごすことができるように、通所事業や訪問事業を実施します。

令和6年度の具体的な取り組み

通所サービスでは、他曜日の利用者同士交流ができるよう、新年会を開催した。
訪問サービスでは、利用者の状態や変化を地域包括支援センターや他支援機関と情報共有した。

取り組みによる成果(地域共生社会・SDGs)

適切なサービスへの移行やサービス内容を変更し、利用者の変化に応じたサービスの提供ができた。(SDGs 目標11、目標16)

令和7年度に向けての課題や具体的な取り組み

通所サービスでは、カラオケなど利用者のやりたいことを取り入れ、楽しんでもらえるような活動内容を検討する。希望する利用者には自費利用と祝日の振替利用を可能とした。
通所サービス・訪問サービスでは、利用者の変化を都度地域包括支援センターへ報告・相談する。

進捗状況及び自己評価

目標の内容		R3	R4	R5	R6	R7	R8	単位
市民意識調査「障がい者や高齢者にやさしいまちと思う」に対する「そう思う」の割合	目標	4.5	4.6	4.7	4.8	4.9	5.0	%
	実績	5.5	4.9	5.0	2.9			
	達成度	100%	100%	100%	60%			

評価基準

点数	達成度	評価基準
5	100%	完了(目標達成)
4	75%	順調に進んでいる
3	50%	概ね順調。不十分な点あり
2	25%	一部実施あるが不十分多い
1	0%	実施方法含めた改善必要

自己評価
3

評価に対する内容説明

実施している内容には変わりがないが、高齢者の増加などにより、より踏み込んだ高齢者支援サービスが求められていると感じる。

御前崎市第4次地域福祉計画・地域福祉活動計画 評価個票

基本目標	3 住み慣れた地域で健康でいきいきと暮らせるまちづくり
施策の方向性	(2) 誰もが健康でいきいきと暮らせる仕組みづくり
事業名	浜岡中央児童館・児童図書館事業(市から受託)

担当	市社協
----	-----

事業概要

幼児や児童の健全な成長及び健康増進を目的とした事業を実施します。

令和6年度の具体的な取り組み

児童館を247日開館した。
以下の行事を各回数実施した。
「みーんなあつまれ」(12回)、「わくわくクラブ」(11回)、「わんぱくクラブ」(11回)、「パラカンコげきじょう」(4回)、「おはなしこんにちは」(62回)、「ハッピーキッズ」(4回)

取り組みによる成果(地域共生社会・SDGs)

幼児や児童、それぞれの年代ごとに合った必要な体験や知識と意識の向上に寄与することができた。
幼児・児童やその保護者が学び・遊びを通じて、児童が健やかに成長できる活動場所を提供することができた。
(SDGsの目標3、目標4、目標11)

令和7年度に向けての課題や具体的な取り組み

居場所となるような温かな雰囲気づくりをし、子育て支援につながる事業を提供していく。令和9年度移転に向けての準備段階を考慮した業務を実施する。

進捗状況及び自己評価

目標の内容		R3	R4	R5	R6	R7	R8	単位
市民意識調査「子どもを産み育てやすいまちと思う」に対する「そう思う」の割合	目標	7.8	7.9	8.0	8.1	8.2	8.3	%
	実績	11.0	7.5	6.6	8.8			
	達成度	100%	94%	82%	100%			

評価基準

点数	達成度	評価基準
5	100%	完了(目標達成)
4	75%	順調に進んでいる
3	50%	概ね順調。不十分な点あり
2	25%	一部実施あるが不十分多い
1	0%	実施方法含めた改善必要

自己評価

5

評価に対する内容説明

当初目標にしていた基準が達成できている。